

## 一般社団法人日本臨床検査医学会 2017 年度に係る定時社員総会 議事録

日 時：2018 年 3 月 24 日（土）13 時～14 時 30 分

場 所：学会会館 2F 202 号室 東京都千代田区神田錦町 3-28（〒101-8459）

出 席：社員（評議員）64 名、名誉会員 2 名、功労会員 2 名

委任状：94 通

矢富裕理事長が議長となり、定時社員総会の決議にあたり、社員数 231 名のところ社員出席者数と委任状数を合わせて半数を越えるため（158 名）当会での決議は成立することが報告され、議事が進められた。

### 会議の目的事項

#### 決議事項

#### 第 1 号議案 2017 年度事業報告および計算書類承認の件（矢富 裕理事長、東條尚子庶務担当理事、諏訪部章会計理事）

事業報告書、貸借対照表、損益計算書、事業成績及び財産の状況の推移、監査報告書が提示された。

事業報告については東條尚子庶務担当理事より報告説明がなされた。

諏訪部章会計理事より計算書類について説明がなされた。

高木康監事より、3 月 1 日に学会事務所において監査を行い、会計帳簿、貸借対照表、事業報告書等に関して適正に処理されており、理事の職務遂行に関して不正な行為はなく、さらには、法令、定款に違反する重大な事実は認められないとの監査報告がなされ、本件は承認された。

#### ※2017 年度事業報告および計算書類後頁に掲載

#### 第 2 号議案 役員任期満了に伴う改選に関する件

議長は、理事全員、監事 1 名が定款の規定に基づき、本定時社員総会の終結と同時に任期満了し退任することになるので、その改選の必要がある旨を述べ、その選任方法を諮ったところ、出席社員中から議長の指名に一任したいとの発言があり、一同これを承認したので、議長は下記の者をそれぞれ指名し、これらの者につきその可否を議場に諮ったところ、満場一致をもってこれを承認した。

##### 1 理事候補者

##### 1) 選挙理事

##### 2016 年就任

矢富 裕（東京大学）：重任  
村上 正巳（群馬大学）：重任  
東條 尚子（三楽病院）：重任  
宮地 勇人（東海大学）：重任  
ㇿ谷 直人（国際医療福祉大学熱海病院）：重任  
木村 聡（昭和大学横浜市北部病院）：重任

##### 2018 年就任

古川 泰司（帝京大学）  
古田 耕（神奈川県立がんセンター）  
松尾 収二（天理よろづ相談所病院）  
山田 俊幸（自治医科大学）：重任  
吉田 博（東京慈恵会医科大学）

##### 2) 支部理事

北海道支部 藤井 聡（旭川医科大学）

東北支部	萱場 広之 (弘前大学)
関東・甲信越支部	東田 修二 (東京医科歯科大学)
東海・北陸支部	田中 靖人 (名古屋市立大学)
近畿支部	小柴 賢洋 (兵庫医科大学) : 重任
中国・四国支部	通山 薫 (川崎医科大学) : 重任
九州支部	松永 彰 (福岡大学)

### 3) 指名理事

下 正宗 (東葛病院)	: 重任
大西 宏明 (杏林大学)	
柴田 綾子 (慶応義塾大学病院)	: 重任
長沢 光章 (国際医療福祉大学)	

### 2 監事候補者

福武 勝幸 (東京医科大学) 2018～2021 年度
継続監事
高木 康 (昭和大学) 2016～2019 年度

### その他

#### ・細則の一部改定に関する報告

東條尚子庶務担当理事より、当法人の細則 3. 役員等の選出に関する細則第 1 章総則第 4 条 5 の評議員再任単位に関する改定、評議員再認の必須単位として、学術集会のほか、特別例会参加を追加する改定、委員会名称の修正が報告された。なお、下線部につき変更を表す。

現行	改定後																																																
<p>3. 役員等の選出に関する細則</p> <p>第 4 条</p> <p>5 評議員の再任にあたっては 5 年間に、3 回以上の社員総会に出席し、かつ本法人が以下に定めた単位を 50 単位以上取得することを要する。なお、50 単位のうち 20 単位は本法人学術集会への出席により満たすものとする。社員総会への出席と取得単位については、<u>資格審査委員会</u>で審議し、再任については、社員総会で決議する。</p>	<p>3. 同左</p> <p>第 4 条</p> <p>5 評議員の再任にあたっては 5 年間に、3 回以上の社員総会に出席し、かつ本法人が以下に定めた単位を 50 単位以上取得することを要する。なお、50 単位のうち 20 単位は本法人学術集会または本法人特別例会への出席により満たすものとする。社員総会への出席と取得単位については、<u>資格審査委員会</u><u>評議員審査委員会</u>で審議し、再任については、社員総会で決議する。</p>																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>単位表</th> <th>出席</th> <th>発表</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本臨床検査医学会学術集会</td> <td>10</td> <td>10 (5)</td> </tr> <tr> <td>日本臨床検査医学会特別例会</td> <td><u>5</u></td> <td><u>5 (2.5)</u></td> </tr> <tr> <td>日本臨床検査医学会支部総会</td> <td>5</td> <td>5 (2.5)</td> </tr> <tr> <td>日本臨床検査医学会支部例会</td> <td>5</td> <td>5 (2.5)</td> </tr> <tr> <td>日本臨床検査医学会が主催、共催</td> <td>5</td> <td>5 (2.5)</td> </tr> <tr> <td>または後援する学術講演会</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>学術論文および筆者 (臨床検査に関する)</td> <td></td> <td>5 (2.5)</td> </tr> </tbody> </table>	単位表	出席	発表	日本臨床検査医学会学術集会	10	10 (5)	日本臨床検査医学会特別例会	<u>5</u>	<u>5 (2.5)</u>	日本臨床検査医学会支部総会	5	5 (2.5)	日本臨床検査医学会支部例会	5	5 (2.5)	日本臨床検査医学会が主催、共催	5	5 (2.5)	または後援する学術講演会			学術論文および筆者 (臨床検査に関する)		5 (2.5)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>単位表</th> <th>出席</th> <th>発表</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本臨床検査医学会学術集会</td> <td>10</td> <td>10 (5)</td> </tr> <tr> <td>日本臨床検査医学会特別例会</td> <td><u>10</u></td> <td><u>10 (5)</u></td> </tr> <tr> <td>日本臨床検査医学会支部総会</td> <td>5</td> <td>5 (2.5)</td> </tr> <tr> <td>日本臨床検査医学会支部例会</td> <td>5</td> <td>5 (2.5)</td> </tr> <tr> <td>日本臨床検査医学会が主催、共催</td> <td>5</td> <td>5 (2.5)</td> </tr> <tr> <td>または後援する学術講演会</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>学術論文および筆者 (臨床検査に関する)</td> <td></td> <td>5 (2.5)</td> </tr> </tbody> </table>	単位表	出席	発表	日本臨床検査医学会学術集会	10	10 (5)	日本臨床検査医学会特別例会	<u>10</u>	<u>10 (5)</u>	日本臨床検査医学会支部総会	5	5 (2.5)	日本臨床検査医学会支部例会	5	5 (2.5)	日本臨床検査医学会が主催、共催	5	5 (2.5)	または後援する学術講演会			学術論文および筆者 (臨床検査に関する)		5 (2.5)
単位表	出席	発表																																															
日本臨床検査医学会学術集会	10	10 (5)																																															
日本臨床検査医学会特別例会	<u>5</u>	<u>5 (2.5)</u>																																															
日本臨床検査医学会支部総会	5	5 (2.5)																																															
日本臨床検査医学会支部例会	5	5 (2.5)																																															
日本臨床検査医学会が主催、共催	5	5 (2.5)																																															
または後援する学術講演会																																																	
学術論文および筆者 (臨床検査に関する)		5 (2.5)																																															
単位表	出席	発表																																															
日本臨床検査医学会学術集会	10	10 (5)																																															
日本臨床検査医学会特別例会	<u>10</u>	<u>10 (5)</u>																																															
日本臨床検査医学会支部総会	5	5 (2.5)																																															
日本臨床検査医学会支部例会	5	5 (2.5)																																															
日本臨床検査医学会が主催、共催	5	5 (2.5)																																															
または後援する学術講演会																																																	
学術論文および筆者 (臨床検査に関する)		5 (2.5)																																															
筆頭者 (共同演者)	筆頭者 (共同演者)																																																

・名誉会員、功労会員の取扱いについての申し合せ

東條尚子庶務担当理事より、名誉会員は会費納入を要せず、功労会員は会費（7千円）の納入を要し、双方とも終身称号であるが、連絡先等が不明となってから3年目の事業年度までに連絡が取れない場合は名簿から外す。ただし連絡があった時点で名簿に戻すことが報告された。

理事長選任、副理事長・常任理事の指名の理事会のため、定時社員総会を一時中断

・理事長選任、副理事長・常任理事の指名の報告

矢富裕 新理事長より、理事長、副理事長、常任理事が次の通り決定したことが報告された。

理事長 矢富 裕

副理事長 山田俊幸

常任理事 村上正巳

常任理事 東條尚子

常任理事 古川泰司

閉会

矢富裕理事長より閉会の言葉があり、2017年度に係わる定時社員総会は閉会された。

以 上

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人がこれに記名押印する。

2018年3月24日

一般社団法人日本臨床検査医学会定時社員総会

議長 代表理事 矢 富 裕

議事録署名人 東 條 尚 子

## 2017 年度事業報告

### 1. 会議

総会	11月17日			
臨時社員総会	11月16日			
定時社員総会	3月26日			
理事会	3月26日	9月2日	10月14日	12月23日
常任理事会	2月16日	8月10日	10月2日	12月7日

2. 学術集会 第64回学術集会 11月16日～11月19日（京都）  
 ※第29回世界病理学・臨床検査医学会連合会議 同時期開催  
 （11月15～11月18日）

### 3. 刊行物

機関紙	第65巻1～12号	Supplement	第65巻	補冊
名簿	刊行しない			

### 4. 臨床検査専門医、管理医、研修施設 認定

臨床検査専門医認定試験	8月5日～6日	（杏林大学医学部）
臨床検査専門医・管理医更新	1月1日	
認定研修施設の認定・更新	1月1日、7月1日	
臨床検査管理医講習・認定試験	11月23日	（東京医科歯科大学）

### 5. 会員数

	2015年度(12/31)	2016年度(12/31)	2017年度(12/31)	2017年度(会員総数)
会員数(合計)	2,975名	2,813名	2,844名	3,252名
正会員	2,711名	2,579名	2,638名	2,955名
（評議員）	(242名)	(240名)	(237名)	(239名)
学生会員	80名	56名	57名	124名
名誉会員	43名	39名	38名	38名
功労会員	141名	139名	111名	135名
賛助会員	30社	30社	33社	33社

- ・2015年度、2016年度の会員数は、事業年度会費納入済みの正会員と学生会員に、名誉会員・功労会員の合計
- ・2017年度（12/31）の会員数は、12月31日現在2017年度会費納入済み会員の合計
- ・2017年度（会員総数）の会員数は、2014年度以降の会費納入者で、2015年度以降の会費未納者（退会届未提出）を含む。

### 6. 関連団体（事業）

- 1) 日本臨床検査専門医会 第27回春季大会（熱海） 2月24日～25日
- 2) 日本臨床検査標準協議会 平成29年度シンポジウム 11月2日
- 3) 第29回世界病理学・臨床検査医学会連合会議（京都） 11月15日～18日
- 4) 日本臨床化学会 第57回年次学術集会（札幌） 10月6日～8日
- 5) 日本臨床検査自動化学会 第49回大会（横浜） 9月21日～23日
- 6) 日本臨床検査同学院 （臨床検査士資格認定試験：二級、緊急、一級）
- 7) 日本遺伝子分析科学同学院 （遺伝子分析科学認定士資格認定試験：初級、一級）
- 8) 認定検査技師機構
- 9) 日本専門医機構
- 10) 臨床検査振興協議会
- 11) 各種認定制度協議会

## I 事業の概況

### 1 事業の経過及び実績

#### 1) 社会公共性への取り組み

日本臨床検査医学会は、一般社団法人として、積極的に社会公共性を意識した活動を展開しています。臨床検査は医療の根幹を成すものであるという中医協の認識が示されていますが、それに見合う評価を受けていないと思われる現状があります。また、遺伝子関連検査など新しい検査が急速に発展する中、臨床検査の精度保証の問題が大きな議論になっていました。そんな中、2017年の医療法一部改正により検体検査の品質・精度の基準が医療法上に明記され、厚労省で具体的な内容について検討が行われています。

以上の状況に鑑み、本学会は、学術集会や学会誌等での臨床検査の社会的役割について啓発活動の継続、標準化活動の推進、各種ガイドライン・指針の策定、臨床検査の臨床的価値・社会的有用性に関する客観的データの提示と提言などを通じて、臨床検査の視点から日本の医療の質向上に寄与しておりますし、今後もその努力を継続させていく所存です。

また、本学会の活動の基本である「臨床検査」という診療領域は、2014年度に発足し、新しい専門医制度を推進する日本専門機構により基本領域のひとつと定義されています。これを受け、社会から求められている日本の専門医制度の確立に向け、2018年度から開始される新しい専門研修のための研修プログラムの整備、認定試験の改善を行っています。

#### 2) 学会活動

学会の事業の一環として、①2017年11月16日～11月19日に国立京都国際会館で第64回学術集会を開催（第29回世界病理学・臨床検査医学会連合会議と同時開催）、②雑誌「臨床病理」（第65巻）の年12回刊行、③臨床検査に関連する各種委員会の開催、④「臨床検査専門医」、「臨床検査管理医」試験実施など、幅広い活動を展開しました。

以下、2017年度の各委員会活動の概要です。

#### (1) 学術推進化委員会（委員長：柳原克紀、担当理事：前川真人）

- 1) 平成30年度以降の学術推進プロジェクト研究課題について  
これまでの隔年募集ではなく、1課題100万円で毎年3課題以内を採択する方針を決定した。研究期間は2年間でこれまでと同様とした。
- 2) 学術集会のYoung investigator award の設立について  
学術集会の一般演題抄録の中から3名を選出し、Young investigator award を贈呈することが検討された。

#### (2) 編集委員会（委員長：福地邦彦、担当理事：村上正巳）

- 1) 編集委員が交代した。2017年度で任期満了の委員について新委員の推薦を依頼した。
- 2) 編集委員の業務の確認した上で編集委員会内規の検討を行い、理事会に提出した。

- 3) 2017年度の優秀論文賞候補論文を選出し、学会賞委員会に報告した。
- 4) 「臨床病理」掲載の図表の転載、また全文の英訳二次出版依頼の対応について確認した。
- 5) 投稿論文の不備による「返却」が多い。論文投稿の段階で a. 新知見・未発表のものであるか、 b. 倫理規定に基づき、委員会等の承認を得ているか c. 本文末尾に利益相反について記載しているかを確認するための投稿原稿添付用紙を作成することとした。
- 6) 原著の受理数が減少しており、また、修正後の再投稿が行われないことが多い。再投稿期限の3か月を経過する前にリマインドを行うこととした。
- 7) 国立研究開発法人科学技術振興機構からのデータベース収録について検討した。

**(3) 教育委員会（委員長：本田孝行、担当理事：山田俊幸）**

- 1) 第28回関東・甲信越支部総会および第73回支部例会開催前に同会場で教育委員会主催のRCPCを実施した。
- 2) 第64回学術集集会にて下記の生涯教育を実施した。
  - a) RCPC2 症例
  - b) 臨床検査医学 catch up セミナー 3 演題
  - c) ワークショップ「新専門医時代 ～臨床検査専門医がこれから考えていくべきこと～」  
(ワークライフバランス委員会と共同企画)
- 3) 第65回学術集集会でも2)のa)、b)を継続し、c)はワークライフバランス委員会主催とすることにした。

**(4) 臨床検査点数委員会（委員長：古川泰司、担当理事：東條尚子）**

- 1) 委員会は、第64回臨床検査医学会学術集集中の2017年11月17日に、日本臨床検査専門医会・保険点数委員会と合同で開催された。
- 2) 体外診断薬うち、アメーバ赤痢診断キットは、事前に日本医師会・疑義解釈委員会への提案なしに、供給停止となっている状況の報告あり。これに対し、委員会として対応できる事を稟議した。
- 3) 平成30年度診療報酬改定では、学会よりの提案が反映されたもの、反映されなかったものがあり、各種提案内容と合わせて、次期診療報酬改定に向けた、活動開始を予定する。

**(5) 学会賞委員会（委員長：岩谷良則、担当理事：戸塚 実）**

- 1) 平成29年8月5日（土）に学会事務所で開催された学会賞選考委員会で下記の受賞候補者を選出し、理事会に報告し、受賞者が決定された。
- 2) 平成29年11月18日（土）に学会賞の受賞講演を第64回日本臨床検査医学会学術集集会（村上正巳会長、国立京都国際会館）にて行った。
- 3) 受賞者  
学術賞（笠島里美氏）、検査・技術賞（渡邊恒夫氏）、若手研究者奨励賞（平千明氏）、優秀論文賞（坂井優喜子（竹森）氏、鈴木啓二郎氏、田中真輝人氏）

**(6) 標準化委員会（委員長：菱沼 昭、担当理事：前川真人）**

- 1) IFCC 甲状腺機能検査標準化委員会のフェーズ IV スタディーが Clin Chem 誌に発表された。TSH:63(7):1248-1260 (2017)、FT4: 63(10):1642-1652 (2017)
- 2) 6月にアテネで IFCC C-STFT（甲状腺機能検査標準化委員会）が開かれた。席上、2018年に

予定していた世界一斉標準化が困難な状況にあることが明らかになった。今後、日本独自に標準化を目指すことも必要になった。

- 3) 6月の日本医学検査学会、10月の日本甲状腺学会にて進捗状況を解説した。8月にJCCLS理事会、10月に日本甲状腺学会理事会に出席し、甲状腺機能検査標準化の現状を説明した。
- 4) 9月に企業メンバーと会合を開き、標準化は学会側が主導して行なうこととなった。
- 5) 11月のWASPaLMおよび日本臨床検査医学会にて、進捗状況を解説した。今後、厚労省にTSHのハーモナイゼーションの要望書を提出する予定である。

**(7) 精度管理委員会（委員長：菊池春人、担当理事：宮地勇人）**

- 1) 2017年度CAPサーベイ参加施設数は111施設、対前年9施設減少(3施設新規参加、12施設参加中止)となった。試料配送に問題はない。
- 2) 臨床検査室グローバルニュースを委員会監修のもと年4回発刊中。中間報告後2017年秋号、2018年冬号を刊行した。
- 3) 国内特有と考えられるCAPサーベイの問題点への対応を継続し(屈折法による尿比重、CBC、中性脂肪のピア評価など)および新たな問題(C-C2017において酵素項目などが評価されていない)に対する対応を行っている。

**(8) EBLM委員会（委員長：片岡浩巳、担当理事：小柴賢洋）**

- 1) 2017年5月に第1回EBLM委員会を開催し、第64回日本臨床検査医学会学術集会でシンポジウムとEBLM教育セミナーを実施することとした。
- 2) 教育セミナーでは、「統計の基礎からデータベース入門」をテーマに、受講者の要望が強かったデータベース技術の話題を追加した。
- 3) シンポジウム企画では「医療ビッグデータ解析時代を支えるEBLM研究の目指す方向性」をテーマに、今後のEBLM領域の課題についてディスカッションを実施する計画とした。

**(9) 倫理委員会（委員長：通山 薫、担当理事：諏訪部章）**

- 1) 第64回日本臨床検査医学会学術集會にて、医療倫理シンポジウム「検体の取扱いと研究倫理の最前線」を開催し、そこでの議論をふまえて「臨床検査を終了した残存検体(既存試料)の業務、教育、研究のための使用について」学会見解の改訂案を策定した。本案は理事会にて承認され、確定版が臨床病理誌66巻1号に掲載済み。
- 2) 委員長を含む委員の一部交代案が出され、社員総会での承認待ち。

**(10) 利益相反委員会（委員長：佐藤尚武、担当理事：諏訪部章）**

- 1) 日本臨床検査医学会 医学研究の利益相反(COI)に関する指針および細則、COI自己申告書(様式1~3)を改定した。
- 2) 上記1)に伴い、ホームページの「学術集會におけるCOI開示」の内容および開示書式を修正した。

**(11) ガイドライン作成委員会（委員長：古川泰司、担当理事：東條尚子）**

- 1) 2017年度第一回委員会は、5月13日に開催され、次版の内容確認、執筆担当者選定が行われた。第二回委員会は第64回臨床検査医学会学術集會中の2017年11月16日に開催され、発刊に向けてのスケジュール確認がなされた。

- 2) 同委員会では、「日常初期診療における臨床検査の使い方」に関するアドホック委員会が同時に開催され、特に同項に含まれる「基本的検査」の扱いについて、委員会およびその後のメール稟議が続けられ、特に梅毒血清反応の扱いについて、学会としての見解を確認するためのアンケート調査が行われた。

**(12) 検査項目コード委員会（委員長：康 東天、担当理事：✕谷直人）**

- 1) 2017年度は3回の委員会を開催した。
- 2) 分析物コード12件（内、5件は特定健診関連）、識別コード17件（内、4件は特定健診関連）、結果識別（固有）コード50件を新設し、また識別コード268件を削除した。
- 3) MEDISからの依頼により新規承認・認証された体外診断薬に対し72件、MEDIS以外からの依頼により102件について付番をした。
- 4) 一般財団法人医療情報システム開発センター（MEDIS）が厚生労働省から受託した「臨床検査マスター普及に向けた調査研究業務」に協力している。MEDISから2017年3月の調査研究業務の成果資料が厚生労働省に納品され、引き続き、当年度もMEDISが厚生労働省から同業務を受託し、2018年3月の納品に向けて作業中である。

**(13) 臨床検査室医療評価委員会（委員長：村上正巳、担当理事：東條尚子）**

- 1) ISO 15189 認定施設を対象として ISO 15189 認定に関するアンケート調査を実施し、103施設から回答を得た。
- 2) 第64回日本臨床検査医学会学術集会時に「ISO 15189 認定取得のインパクト」をテーマとして開催された全国検査部長・技師長会議においてアンケート調査結果を報告した。

**(14) 新専門医制度広報アドホック委員会（委員長：田部陽子、担当理事：山田俊幸）**

- 1) 学会 HP 上に臨床検査専門医取得に関するサポートセンターを開設し、「受験資格と認定施設での研修に関する Q&A」を掲載した。
- 2) 学会 HP「臨床検査専門医を目指す方へ」の臨床検査専門医紹介コーナーに臨床検査専門医の声を掲載した。（現在、7名の専門医の声を掲載中）
- 3) 臨床検査振興協議会による「厚労省霞ヶ関子ども見学デー」での広報活動に参加・協力した。

**(15) 遺伝子委員会（委員長：前川真人、担当理事：宮地勇人）**

がんゲノム医療推進に対し、検査の分析的妥当性の重要性を訴えるべく、以下の提言書を作成し、関連団体などに周知し、関連コンテンツと共に学会 HP に掲載した。「ゲノム医療推進にとって臨床的妥当性と臨床的有用性のエビデンスは重要である。意味のあるエビデンスの大前提として、精確な検査結果を得るための遺伝子関連検査の分析的妥当性の確保に関して、医療関係者のみならず医療政策立案者、そして国民の関心と理解が必要である。」

**(16) 国際委員会（委員長：石井潤一、担当理事：村上正巳）**

- 1) 2017年度国際学会奨励賞受賞候補者に佐藤恵美氏、石垣知寛氏、千葉 満氏を推薦した。
- 2) LMCE2017 and KSLM (Oct 18-20, Seoul, Korea) における keynote speaker に野村文夫先生（千葉大学）を、one slot in regional symposium に山田俊幸先生（自治医科大学）を推薦した。



**(17) 医療安全委員会（委員長：中谷 中、担当理事：小柴賢洋）**

- 1) 2017年3月22日、「医療事故調査制度」協力学会説明会に中谷が出席した。
- 2) 第64回日本臨床検査医学会学術集会において、2017年11月18日に感染制御（演者：森兼啓太先生、田辺正樹先生）と医療安全（演者：中島和恵先生）をテーマとして医療安全シンポジウム、11月19日に委員会を開催予定である。
- 3) 2017年11月24日、医療安全全国共同行動平成29年度第2回会員連絡会議および医療安全全国フォーラムに中谷が出席予定である。

**(18) 会則改定委員会（委員長：東條尚子、担当理事：✕谷直人）**

- 1) 日本専門医機構による「基本領域 臨床検査専門医」ならびに「日本専門医機構認定臨床検査領域基幹施設の統括責任者」が新たに認定されることから、これに合わせて細則における評議員候補者の要件の改定案を作成した。
- 2) パートタイマー就業規則を作成した。
- 3) 改正個人情報保護法の全面施行に合わせ、個人情報取り扱い規則改定案を作成した。
- 4) 編集委員会規則・内規ならびに支部規約の内容を確認した。

**(19) チーム医療委員会（委員長：諏訪部章、担当理事：柴田綾子）**

- 1) 第64回学術集会（京都）において、本委員会主催の「パニック値対応に関するシンポジウム」を企画した。全国の主な病院に対しパニック値に関する大規模アンケート調査を実施し、その結果を本シンポジウムで発表した。
- 2) 同学術集会にて、「在宅医療と臨床検査」の分野に造詣の深い専門委員が加わり、第1回委員会が開催された。その結果、今後3年間の学術集会のシンポジウムにおいて継続的に「在宅医療と臨床検査」を取り上げ、本学会としての指針について検討することになった。
- 3) 本委員会の活動内容を学会HPで紹介した。

**(20) 学術集会企画委員会（委員長：村田 満、担当理事：木村 聡）**

- 1) 評議員に対してアンケートを行い、3年間連続して（シリーズとして）取り上げたいもの、単年度で取り上げたいテーマ、演者について情報収集した。アンケート集計に基づき、教育講演、シンポジウム、専門医教育プログラム、領域別シンポジウム、他学会等共催シンポジウム、本学会委員会企画等について方針を共有した。今後3名の学術集会长予定者が互いに連絡とりながら内容を選択してゆくこととした。
- 2) 学術集会時の委員会主催講演会やシンポジウムに際して、本学会非会員が講演者となった場合の謝礼や交通費等の費用負担について審議された。当委員会としては、「基本的に学術集会长の負担とするが学術集会长が「学会が支払うべき」と判断した場合は理事長宛に要望書を提出する」ことになり、理事会に上申することとした（学会同士の共催シンポジウム等については今回の議論に含めない）。

**(21) ワークライフバランス委員会（委員長：田部陽子、担当理事：山田俊幸）**

- 1) 「大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会」（日本医師会 女性医師支援センター）に出席した。
- 2) 第1回医学生・若手医師のための臨床検査ハンズオンセミナー（教育委員会、日本臨床検査専門医会 共催）を開催した。

- 3) 第 64 回学術集会でワークショップ「新専門医時代 ～臨床検査専門医が考えていくべきこと～」(教育委員会、臨床検査専門医会 共催)を開催した。
- 4) 第 64 回学術集會時に託児所アンケート調査を行った。

**(22) 熊本地震対策委員会 (委員長：✕谷直人、担当理事：✕谷直人)**

- 1) 2016 年 4 月 14 日の地震発生により、当委員会を 4 月 17 日に発足し検査物資を中心に支援を行い、本年 3 月末に解散となった。
- 2) 本年 4 月 30 日に「熊本地震における臨床検査支援活動」を発行した。

**(23) 研修施設・指導者認定委員会 (委員長：村上正巳)**

- 1 月 1 日、7 月 1 日付での新規申請施設および再認定施設の研修施設・指導者についての適否の審査を行い、審議会に報告した。

**(24) 臨床検査管理医試験実行委員会 (委員長：東田修二)**

- 第 9 回臨床検査管理医 講習会・認定試験を 2017 年 11 月 23 日に東京医科歯科大学で実施した。19 名が受講・受験し、全員が合格した。

**(25) 受験・更新資格審査委員会 (委員長：菊池春人)**

- 2018 年 1 月 1 日付けでの臨床検査管理医、学会専門医の更新資格について審査を行い、臨床検査専門医・管理医審議会に報告した。

- 1) 学会専門医更新：計 21 名を有資格者とし、1 名を審議会での審議するようお願いした。また、1 名について保留が認められると判定した。
- 2) 管理医更新：計 68 名を有資格者と判定した。また、6 名について保留可とした。1 名については規定により保留不承認とした。

**(26) 試験委員会 (委員長：宮地勇人)**

- 1) 日本専門医機構の整備指針に基づき、臨床検査専門医認定試験の客観性、透明性、公平性を確保するため、試験のあり方の検討を行い、臨床検査専門医・管理医審議会での審議を踏まえ、試験の見直しを順次行っている。
- 2) 第 34 回試験 (2017 年度) について、出題基準・出題範囲の公示に基づき、筆記試験 (記述問題、多肢選択問題)、実技試験について、試験委員会・実行委員会の合同会議による試験問題のブラッシュアップを行った。試験準備側の負担を減らしつつ、より客観的で合理的な実技出題の方法として、実技動画試験を順次拡大、2017 年にバーチャルスライド試験を導入した。
- 3) 試験実施内容の評価と合否の最終判定を行った。  
第 34 回臨床検査専門医認定試験実施  
試験実行委員長：渡邊卓 (杏林大学)  
開催場所：杏林大学医学部基礎研究棟  
実施日： 筆記試験 2017 年 8 月 5 日  
          実技試験 2017 年 8 月 6 日
- 4) 検体検査の品質・精度の確保に関する医療法等の一部改正の公布に呼応し、染色体・遺伝子関連検査の位置付けを検討した。
- 5) 第 35 回試験 (2018 年度) の出題基準・出題範囲の公示内容を検討した。

## 2 対処すべき課題

### 1) 学会活動の活性化

社会の発展を支える人々の健康増進と疾病予防、疾病の早期発見・治療に有用な臨床検査の開発を支える臨床検査医学の研究成果を得るために、学会活動を更に活性化する必要があると考えています。学術集会の開催、雑誌「臨床病理」の発刊、各種委員会の開催などの活動に加え、学会賞や、学術推進プロジェクトによる社員の研究活動のさらなる推進とともに、次世代の臨床検査医学の研究を担う若手研究者の育成も急務です。また、日本臨床衛生検査技師会をはじめとする関連団体との有機的な連携も重要と考えており、継続的に議論しております。

### 2) 社会の求める臨床検査専門医・臨床検査管理医の養成

社会に役立つ質の高い臨床検査専門医・臨床検査管理医数の増加が必須と考えています。臨床検査専門医については、前述の新専門医制度での基盤整備が整い、2018年度の専攻医募集が行われました。今後は多くの専攻医を確保する努力が求められます。臨床検査管理医については、教育講習と認定試験の改善について検討を続けております。検体検査管理加算（IV）、2016年から新規導入された国際標準検査管理加算などの高い評価ならびに臨床検査の品質・精度に関する医療法の一部改正の施行開始を控え、臨床検査（室）を的確に管理する能力をもった臨床検査専門医・臨床検査管理医を数多く養成することは本学会の責務と考えています。

### 3) 社会が求める臨床検査に関わる倫理観の向上

医療倫理の観点から、本学会では、2002年に「臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用について」の見解を倫理委員会が中心となり作成、公表しましたが、「臨床研究に関する指針」が2008年7月に全面改正されたことに則って、2010年2月に新たな「臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用について」の見解を公表いたしました。その後、2014年に行ったアンケート調査で、本見解は認知・運用されているが、検体の外部持ち出しや同意取得過程、研究と業務の区分などについて問題点が残っていることがわかりました。2017年に「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等が一部改正されたことから、再度の論議を経て、2017年12月、「臨床検査を終了した検体の業務、教育、研究のための使用について」の見解を新たに公表いたしました。

また、2012年度からは利益相反委員会を新たに立ち上げ、学会の公正性・透明性を高めております。2012年以降の学術集会において、全発表に利益相反状態の開示を義務づけています。役員や委員会委員長就任時、学術集会等での発表および論文投稿時の利益相反の報告やその取扱い等については、「医学研究の利益相反（COI）に関する細則」に従い、2015年度より実施しています。

## 3 設備投資の状況

当期における資産の取得状況はありません。

#### 4 事業成績及び財産の状況の推移

(単位：円)

区分	2014年度 (H26) 第9期 2014/1/1～ 2014/12/31	2015年度 (H27) 第10期 2015/1/1～ 2015/12/31	2016年度 (H28) 第11期 2016/1/1～ 2016/12/31	2017年度 (H29) 第12期 2017/1/1～ 2017/12/31
1 会費収入	39,621,000	40,737,000	37,050,000	38,812,000
2 事業収入	42,335,239	40,755,020	29,581,283	28,039,387
3 助成金収入	0	0	0	0
4 補助金収入	0	0	0	0
5 寄付金収入	14,000,000	13,000,000	14,000,000	11,500,000
合計	95,956,239	94,492,020	80,631,283	78,351,387
6 事業費	65,881,358	61,907,923	49,781,579	50,567,053
7 管理費	25,047,350	23,390,638	29,005,173	29,596,438
合計	90,928,708	85,298,561	78,786,752	80,163,491
8 当期経常増減額	4,110,153	15,176,351	△3,101,041	△6,612,791
9 税引前当期利益	4,110,153	15,176,351	△3,101,041	△6,612,791
10 当期正味財産増減額	4,040,153	15,106,351	△3,171,041	△6,682,791
11 資産合計	160,357,702	173,808,847	174,364,848	168,481,548
12 純資産合計	149,955,355	165,061,706	161,850,665	155,167,874
13 基金	147,000,000	147,000,000	147,000,000	147,000,000

## II 法人の概況

### 1 主な事業内容

本法人は、臨床検査医学（臨床病理学）に関する学理及びその応用についての研究発表、知識の交換、会員相互及び内外の関連学会との連携協力等を行うことにより、臨床検査医学（臨床病理学）の進歩・普及を図り、もってわが国の学術の発展に寄与することを目的として次条の事業を行う。

- ① 総会、講演会、学術集会の開催
- ② 学会機関誌、学術図書及びその他の刊行物の発行
- ③ 学会認定臨床検査専門医、臨床検査管理医の資格認定
- ④ 臨床検査士およびその他の臨床検査に係わる資格認定
- ⑤ 世界病理・臨床検査医学会連合〔World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM)〕ほか内外の関連諸学術団体・協会との連絡並びに協力活動
- ⑥ その他本法人の目的を達成するために必要な事業

2 社員（2017年12月31日現在）：239名

3 役員（2017年12月31日現在） 22名

理事	矢富 裕	（理事長）
	山田 俊幸	（副理事長）
	村上 正巳	
	諏訪部 章	
	東條 尚子	
	前川 真人	
	小柴 賢洋	
	宮地 勇人	
	メ谷 直人	
	木村 聡	
	戸塚 実	
	柴田 綾子	
	下 正宗	
	清水 力	
	賀来 満夫	
	本田 孝行	
	石井 潤一	
	一山 智	
	通山 薫	
	岡山 昭彦	
監事	高木 康	
	尾崎由基男	

4 決算期後に生じた法人の状況に関する重要な事実  
記載すべき事項は、ありません。

# 『決算報告書』

## 《貸借対照表》

2017年12月31日

(単位：円)

【流動資産】	162,955,920	【流動負債】	8,953,674
現金・預金	159,136,497	未払金	313,071
未収会費	595,000	前受管理医申請料	95,000
未収外部販売収入	2,168,448	前受管理医更新料	685,000
未収広告収入	423,360	前受会費	5,972,000
未収出版事業収入	162,117	預り金	329,803
未収ガイドライン収入	130,498	前受専門医更新料	830,000
未収若手の会諸費用収入	300,000	未払法人税等	70,000
未収新専門医制度関連収入	40,000	日本専門医機構預り金	658,800
【固定資産】	5,525,628	【固定負債】	4,360,000
(有形固定資産)	35,668	退職給与引当金	4,360,000
付属設備	263,550	負債合計	13,313,674
減価償却累計額	-227,882	【基金】	
(無形固定資産)	305,760	基本金	147,000,000
電話加入権	305,760	(利益剰余金)	8,167,874
(投資その他の資産)	5,184,200	[その他利益剰余金]	8,167,874
敷金	3,589,200	繰越利益剰余金	8,167,874
長期貸付金	1,595,000	純資産合計	155,167,874
資産合計	168,481,548	負債・純資産合計	168,481,548

一般社団法人 日本臨床検査医学会

# 《2017年度決算報告》

## 一般会計

自 2017年1月1日 至 2017年12月31日

	[事業収入]	2017予算	2017決算	差額	
1	会費収入				1
2	正会員会費収入(学生会費含)	34,000,000	33,042,000	-958,000	2
3	功労会員会費収入	950,000	819,000	-131,000	3
4	評議員会費収入	245,000	241,000	-4,000	4
5	賛助会費収入	4,000,000	3,550,000	-450,000	5
6	臨時会費収入	1,200,000	1,160,000	-40,000	6
7	小計	40,395,000	38,812,000	-1,583,000	7
8	専門医関連収入				8
9	専門医受験料収入(再試験料含)	1,500,000	1,620,000	120,000	9
10	専門医登録料収入	800,000	870,000	70,000	10
11	専門医更新料収入	1,000,000	1,070,000	70,000	11
13	小計	3,300,000	3,560,000	260,000	13
14	管理医関連収入				14
15	管理医受験料収入	900,000	570,000	-330,000	15
16	管理医申請料収入	100,000	200,000	100,000	16
17	管理医登録料収入	300,000	190,000	-110,000	17
18	管理医更新料収入	700,000	500,000	-200,000	18
19	小計	2,000,000	1,460,000	-540,000	19
20	学会機関誌事業収入				20
21	外販収入	8,000,000	6,915,221	-1,084,779	21
22	広告収入	4,600,000	4,358,880	-241,120	22
23	小計	12,600,000	11,274,101	-1,325,899	23
24	寄付金収入				24
25	JACLaSからの寄付金収入	12,000,000	10,000,000	-2,000,000	25
26	2016日臨技-JSLM学術集会補助金の分配金	—	801,840	801,840	26
27	小計	12,000,000	10,801,840	-1,198,160	27
28	出版事業収入				28
29	別冊代・超過頁代・カラー代等収入	1,000,000	1,644,084	644,084	29
30	許諾使用料収入	600,000	323,413	-276,587	30
31	新専門医制度関連収入(e-learning)	1,500,000	746,000	-754,000	31
32	臨床検査ガイドライン冊子収入	100,000	332,350	232,350	32
33	検査診断事典編集・著作権使用料等収入	2,000,000	1,268,263	-731,737	33
34	血尿診断ガイドライン著作権料分配金収入	20,000	3,104	-16,896	34
35	会議室使用料収入	1,500,000	1,326,232	-173,768	35
36	ワークライフバランス委員会WS諸費用日本医師会より, その他	300,000	300,000	0	36
37	小計	7,020,000	5,943,446	-1,076,554	37
38	補助,学術集会返戻金等,その他の収入				38
39	第63回学術集会(神戸)より	—	199,007	199,007	39
40	小計	0	199,007	199,007	40
42	事業総収入	77,315,000	72,050,394	-5,264,606	42

	[事業経費]	2017予算	2017決算	差額	
43	学会機関誌発行費用				43
44	製作費	23,000,000	24,282,908	1,282,908	44
45	送料その他	7,000,000	6,159,068	-840,932	45
46	小計	30,000,000	30,441,976	441,976	46
47	事業費				47
48	支部活動補助金	2,900,000	2,779,500	-120,500	48
49	各種委員会活動補助金	2,500,000	2,225,986	-274,014	49
50	第64回学術集会補助金(2017)	4,000,000	4,000,000	0	50
51	第65回学術集会補助金(2018)	1,000,000	1,000,000	0	51
52	学術推進プロジェクト研究助成金	2,500,000	2,500,000	0	52
53	国際学会参加補助金	300,000	0	-300,000	53
54	専門医認定試験費用	2,000,000	1,895,121	-104,879	54
55	管理医講習・認定試験費用	500,000	418,360	-81,640	55
56	新専門医制度関連費用	2,000,000	1,246,999	-753,001	56
57	会員証発行費用	50,000	39,870	-10,130	57
58	諸会費	2,000,000	2,274,724	274,724	58
59	臨床検査ガイドライン冊子作製費用	-	25,920	25,920	59
60	小計	19,750,000	18,406,480	-1,343,520	60
61	管理費				61
62	会議費	800,000	848,269	48,269	62
63	旅費交通費	3,000,000	3,001,556	1,556	63
64	通信費	900,000	1,256,305	356,305	64
65	事務用品費・印刷・リース費	1,500,000	1,440,694	-59,306	65
66	事務委託費	650,000	648,000	-2,000	66
67	顧問料	1,000,000	972,000	-28,000	67
68	交際費(慶弔費)	100,000	75,491	-24,509	68
69	事務所賃借料	5,850,000	5,814,504	-35,496	69
70	事務所諸経費	650,000	612,576	-37,424	70
71	事務所備品代	200,000	170,964	-29,036	71
72	水道光熱費	400,000	354,668	-45,332	72
73	給与・手当等	9,000,000	8,467,661	-532,339	73
74	外注作業代	100,000	0	-100,000	74
75	法定福利費	1,500,000	1,818,435	318,435	75
76	退職掛金	480,000	480,000	0	76
77	消耗品費	260,000	164,906	-95,094	77
78	法人登記変更等費用	100,000	48,115	-51,885	78
79	雑費(支払手数料)	200,000	184,013	-15,987	79
80	減価償却費	0	8,916	8,916	80
81	ワークライフバランス委員会WS諸費用(旧若手医師の会)	300,000	300,000	0	81
82	予備費	5,000	0	-5,000	82
83	小計	26,995,000	26,667,073	-327,927	83
84	税金				84
85	法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0	85
86	納付消費税	500,000	645,400	145,400	86
87	小計	570,000	715,400	145,400	87
88	事業経費合計	77,315,000	76,230,929	-1,084,071	88
89	事業収支差額	0	-4,180,535	-4,180,535	89
90	[事業外収入]				90
90	受取利息	1,500	103	-1,397	90
91	事業外収入合計	1,500	103	-1,397	91
92	[事業外経費]				92
92	事業外支出合計	0	0	0	92
93	事業外支出合計	0	0	0	93
94	事業外収支差額	1,500	103	-1,397	94
95	経常収支差額	1,500	-4,180,432	-4,181,932	95

96 繰越額 40,472,526 96



# 《2017年度決算報告》

## 特別会計

自 2017年1月1日 至 2017年12月31日

	[事業収入]	2017補正予算	2017決算	差額	
1	日本専門医機構からの貸付金返金	0	159	159	1
2	事業総収入	0	159	159	2
	[事業経費]	2017補正予算	2017決算	差額	
3	第29回WASPaLM補助金	1,000,000	1,000,000	0	3
4	熊本地震対策費用 <small>(2016年度からの継続事業)</small>	0	1,273,057	1,273,057	4
6	雑費（支払い手数料等）	0	2,052	2,052	6
7	事業経費合計	1,000,000	2,275,109	1,275,109	7
8	事業収支差額	-1,000,000	-2,274,950	-1,274,950	8
9	経常収支差額	-1,000,000	-2,274,950	-1,274,950	9
10			繰越額	80,021,324	10

# 《2017年度決算報告》

## アジア交流基金

自 2017年1月1日 至 2017年12月31日

	[事業収入]	2017補正予算	2017決算	差額
1	事業総収入	0	0	0
<hr/>				
	[事業経費]	2017補正予算	2017決算	差額
2	ASCPaLM会費	100,000	0	-100,000
3	雑費(支払手数料)	0	864	864
4	事業経費合計	100,000	864	-99,136
5	事業収支差額	-100,000	-864	99,136
<hr/>				
	[事業外収入]	2017補正予算	2017決算	差額
6	受取利息	0	32	32
7	事業外収入合計	0	32	32
<hr/>				
	[事業外経費]	2017補正予算	2017決算	差額
8	ASCPaLM理事会費用(第64回学術集会 京都)	300,000	118,597	-181,403
9	事業外支出合計	300,000	118,597	-181,403
10	事業外収支差額	-300,000	-118,565	181,435
11	経常収支差額	-400,000	-119,429	280,571
<hr/>				
12			繰越額	3,557,733

## 《2017年度決算報告》

### 学会賞基金

自 2017年1月1日 至 2017年12月31日

	[事業収入]	2017予算	2017決算	差額	
1	寄付金収入(協賛社より)	1,000,000	1,500,000	500,000	1
2	事業総収入	1,000,000	1,500,000	500,000	2
	[事業経費]	2017予算	2017決算	差額	
3	学会賞副賞	1,300,000	1,300,000	0	3
4	国際学会奨励賞副賞	300,000	300,000	0	4
5	雑費(支払手数料)	10,000	7,992	-2,008	5
6	事業経費合計	1,610,000	1,607,992	-2,008	6
7	事業収支差額	-610,000	-107,992	502,008	7
	[事業外収入]	2017予算	2017決算	差額	
8	受取利息	0	12	12	8
9	事業外収入合計	0	12	12	9
	[事業外経費]	2017予算	2017決算	差額	
10	事業外支出合計	0	0	0	10
11	事業外収支差額	0	12	12	11
12	経常収支差額	-610,000	-107,980	502,020	12
13			繰越額	30,723,338	13

次の通り、第63回日本臨床検査医学会学術集会の収支をご報告いたします。

収支報告書

開催日:2016年9月1日から9月4日

I 収入の部

1.参加料収入

事前参加登録：会員	(@10,000x474名)		4,740,000	
事前参加登録：非会員	(@20,000x40名)	: JAMTと折半	400,000	
当日参加登録：会員	(@12,000x445名)		5,340,000	
当日参加登録：大学院生	(@5,000x41名)	: JAMTと折半	102,500	
当日参加登録：非会員	(@22,000x213名)	: JAMTと折半	2,343,000	12,925,500

2.共催収入

ランチョンセミナーB	(@1,080,000x7社)	: JAMTと折半	3,780,000	
ランチョンセミナーC	(@864,000x18社)	: JAMTと折半	7,776,000	
ランチョンセミナー共同開催	(@135,000x4社)	: JAMTと折半	270,000	
スイーツセミナー	(@691,200x6社)	: JAMTと折半	2,073,600	13,899,600

3.広告収入

プログラム広告			1,209,600	
ハナー広告			183,600	1,393,200

4.会員懇親会会費収入

事前参加登録	(@5,000x89名)		445,000	
当日参加登録	(@5,000x164名)	: JAMTと折半	410,000	855,000

5.補助金収入

日本臨床検査医学会本部より				5,000,000
---------------	--	--	--	-----------

6.普通預金利息

222

収入の部合計 34,073,522

II 支出の部

1.事業費

会場借料費(神戸国際展示場他)			1,521,680	
会場設営費			9,285,338	
運営費			13,526,473	
招請者関係費			2,644,107	
広告費			1,296,000	
各種システム費			1,542,240	29,815,838

2.管理費

人件費			2,426,112	
通信運搬費			234,684	
事務関係費			97,200	
各種手数料等			773,202	
出張関係費			155,967	
会合関係費			148,935	
旅費交通費			114,577	
決算手数料			108,000	4,058,677

支出の部合計 33,874,515

収支差額 199,007

## 監査報告書

2017年1月1日から2017年12月31日までの第12期事業年度の理事の職務の執行に関して、本監査報告書を作成し、次のとおり報告します。

### 1. 監査の方法の概要

監事は、社員総会その他重要な会議に出席するほか、理事等から事業の遂行の状況について報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、主たる事務所等において業務及び財産の状況を調査しました。また、会計帳簿等の調査を行い、計算書類につき検討を加えました。

### 2. 監査の結果

- (1) 会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、貸借対照表及び損益計算書の記載と合致しているものと認めます。
- (2) 貸借対照表及び正味財産増減計算書は、法令及び定款に従い、法人の財産及び損益の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 事業報告書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- (4) 附属明細書は、記載すべき事項を正しく示しており、指摘すべき事項は、認められません。
- (5) 理事の職務遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

2018年 3月 / 日

一般社団法人日本臨床検査医学会

監事

高木 康 

監事

尾崎 由基 